



病院

【部局のミッション（基本理念・使命）】

- 病院は、「患者に優しい医療と先進医療との調和」を基本理念とし、難病治療、移植医療などに積極的に取り組み、最先端医療の開発・実践・応用を行うことによって国民への貢献を果たし、また社会の要請に応える高度な知識・技術を兼ね備えた人間性豊かな医療人を養成し、社会に輩出します。
- 病院は、人類の健康増進や新たな治療法の確立のため、研究のシーズを学内外から広く集め基礎研究から橋渡し研究、さらに臨床研究・治験へと切れ目のない開発・研究支援を行うことにより、医薬品・医療機器の実用化を図ります。

【機能強化に向けた取組方針（～2017年度）】

- 私たちは、「患者に優しい医療と先進医療との調和」という基本理念を更に継承・発展させるため、高度先進医療の実践の場となる新中央診療棟を建設・整備することにより最先端医療の更なる展開を図るとともに、予防から治療までの適正なケアサイクルを確立し、医療の質と安全を追求することを目指します。
- 私たちは、「ワールドクラスへの飛躍」を目指すため、病院機能の国際化に係る環境整備として、国際的医療スタッフとしての資質を備えた医療人を育成し、諸外国の先進医療拠点病院との間に国際的医療ネットワークの形成・展開を図り、海外からの患者受入れ体制を積極的に整備します。
- 私たちは、我が国における医療イノベーション及び先端医療の拠点として、臨床研究及びトランスレーショナルリサーチを促進し、専門的人材の養成を図るため臨床研究推進センターの機能強化を図るとともに、全学の医療関係部局及び各省庁・企業と連携し、国際展開を視野に入れたメディカルサイエンス実用化事業に取り組みます。
- 私たちは、地域医療復興センターを中心として、各医療機関・医師会と連携しながら医師偏在の解消、超高齢社会等の社会構造の変化に対応できるICTを利用した新しい地域医療提供体制の構築、地域医療を担う意欲と能力を持つ医師の養成、及び災害の状況に応じた適切な医療体制の構築を推進します。

【重点戦略・展開施策】

1. 高度な先進医療の実践と適正なケアサイクルの確立（診療）

◇新中央診療棟建設による診療機能の強化

東北大学病院は、特定機能病院としてより高度な先進医療を推進します。2016年度末竣工予定の新中央診療棟では、地下1階に放射線照射機器を5台導入、1階には高度救命救急センターを新たに設置、2階には材料部と病理部、3階にはハイブリッド手術室、ロボット手術対応手術室、MRI装置併設手術室など計17の手術室を設置、4階には計34床のICUを設け、今後増加する高度医療及び大規模災害に対応できる設備強化と環境整備を実施し、機能的センター化により先進医療を促進します。（2017年度稼働予定）

◇小児腫瘍センター（仮称）の設置

小児腫瘍センター（仮称）を設置し、関東以北の小児がんを受け入れ、新規治療法の開発や研究を構築します。

◇遺伝子診療部（仮称）体制の構築

遺伝子診療部（仮称）体制の整備を行い、遺伝性疾患の診断体制の構築、遺伝カウンセリング、コンサルテーションなどの外来業務の拡充を目指します。

◇移植医療の中核機能の推進

心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓等、全臓器が移植可能な移植医療の東北地方の中核病院として機能強化を図ります。

◇高度な歯科医療と医科歯科連携の推進

歯科インプラントを含む補綴、保存、矯正領域の歯科治療と歯科口腔外科領域の手術の3次元デジタル化を推進し、高度で先進的な歯科医療システムを構築します。

周術期口腔管理室（仮称）を設置し、医科歯科連携を強化することによって医療の質を向上させます。

◇電子化の促進

メディカルITセンターの機能強化により院内の電子化促進と診療の効率化を図ります。

◇地域医療連携等

地域医療連携センターによる病院間の連携と病院と診療科の連携のみならず、在宅医療や介護施設と連携し、地域包括ケアシステムの推進を図ります。宮城県がん診療連携拠点病院として地域のがん診療連携拠点病院に対して、専門医療職の研修事業、がん登録事業、がん相談支援事業などの診療支援を進めます。宮城県内及び東北地方におけるがん療法の標準

化とその提供体制の整備、及び治療医の人材交流を推進します。

2. 医学・医療の発展を推進する指導的人材と人間性豊かな医療人の育成（教育）

◇初期臨床研修医の採用数の増加

卒後研修センターの拡充による研修医のサポート体制と広報活動の強化を図ります。臨床研修指導医教育の強化による指導体制の充実を推進します。総合地域医療研修センター（スキルスラボ）や先端医療技術トレーニングセンターを活用した臨床研修カリキュラムの充実を図ります。

◇地域医療人育成への取組

地域医療の意義や重要性の啓発のための卒前医学教育カリキュラムの導入を図ります。初期臨床研修における「地域医療重点プログラム（地域医療の現場経験の充実を目的とし、3次救急病院10か月、2次救急病院6か月の学外関連施設における臨床研修）の導入を推進します。後期研修における総合医・家庭医育成プログラム（学外に「地域教育拠点施設（日本プライマリ・ケア連合学会・家庭医療後期研修プログラム認定施設）」を設置し、ICTを活用しながら大学と地域が一体となって育成）の導入を推進します。

◇国際化の推進

宮城県医師育成機構等との連携を強化し、初期臨床研修医の短期海外研修を推進します。海外の日本人医師会との連携による研修医教育の充実を図るとともに、海外からの臨床研修指導医の招聘を推進します。

◇先端医療教育及び専門医療人教育

先端医療技術トレーニングセンターを活用し、若手医師に対する先端医療教育の充実を推進します。看護師、医療技術者の高度医療資格取得の積極的支援を目指します。東北がんプロフェッショナル養成推進プランをはじめとする大学病院の教育機能を活かしたがん専門医療人の教育の実施と医学物理士の育成と宮城県内における適正配備を推進します。歯科インプラント教育研修プログラムを開発し、次世代の歯科インプラント治療を担う信頼性・専門性の高い人材（歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士）を養成します。

◇フィジシャンサイエンティスト育成への取組

臨床研究の重要性を理解させるために、卒前臨床実習において学会発表・論文作成の機会を提供します。臨床研究の意義を理解するために、6年次臨床実習において各診療科における専門研究に携わる機会を提供します。研修医に対して臨床研究・医学統計に係るセミナーを実施するとともに、研修医の臨床研究・治験への積極的な参加を促進します。

◇臨床研修医等のための宿泊施設の整備・運営

臨床研修医等の研修環境の充実を目指し、臨床研修医を主な対象とした宿泊施設の整備・運営を推進します。

3. 臨床研究推進センターを中心とした先進医療体制の整備と医療機器や医薬品の開発促進

◇臨床研究推進センターの機能推進・基盤整備

臨床研究中核病院整備事業・橋渡し研究加速ネットワーク事業を活用し、臨床研究推進センターの機能強化を図り、5年後の自立化を目指します。東北トランスレーショナルリサーチ拠点形成ネットワーク（TTN）を整備し、臨床研究及び治験を推進します。医学系研究科の創生応用医学研究センターと連携し、医療機器開発・新薬開発の積極的支援と実用化成功例の達成を目指します。臨床研究推進センターを中心として伴走企業とのマッチングと薬事承認申請を念頭に、スピーディかつ市場を見据えた医薬品・医療機器の開発及び支援を推進します。細胞治療を含む再生医療研究基盤形成を目指します。バイオデザイン部門の設置により、企業サイドのシーズと医療現場のニーズのマッチングを図り新規事業を開拓し、産学との医療現場共有モデルを構築します。

◇メディカルサイエンス実用化推進委員会の推進

全15部局との密接な連携構築によるオール東北大学体制の実現と学内リソースの「見える」化を行い、院内・学内・学外連携によるシーズ探索・創出機能の強化を推進します。アドミニストレーター、病院内・学内外ネットワークの整備による迅速かつイノベティブなフェイス・トゥー・フェイスディスカッションを実現します。「みやぎ知と医療機器創出拠点推進事業」と協力し、産学連携強化により医療機器開発を推進します。

◇臨床検体バンクの整備

医学系研究科及び東北メディカル・メガバンク機構と連携し、臨床系教員により収集される臨床検体のバンク化を進め、基礎研究成果のヒト疾患での検証やバイオマーカー検索が可能な研究環境を整備します。その準備として各診療科がストックしている検体あるいは疾患リストのデータベース化を目指します。

4. 病院の国際化推進と社会に開かれた広報体制

◇国際化推進室の設置

国際化推進室を設置し、ネットワーク会議システムを用いた国際遠隔カンファレンス、国際遠隔医療支援の実現、多言語ウェブサイトによる国際情報発信などを目指します。外国人患者の受入れを目指した医療の環境整備を行うとともに、海外の拠点病院等との積極的人材交流を推進します。

◇社会に開かれた広報体制

広報室を主体としてホームページ、刊行物及びマスメディアを通して、地域市民への発信と世界に向けたグローバルな情報発信を強化します（プレスリリース30件/年）。また市民向けに年2回の東北大学病院市民公開講座を開催しています。

5. 被災地及び地域医療再生の推進

◇地域医療モデルの構築

各行政機関、関連病院、医師会と連携し、修学資金奨学生等のキャリア形成も含めた医師偏在解消につながる誘導策や制度に関する施策提言を行い、拠点病院をハブとした診療圏を設置し、各拠点病院から中小医療施設への循環型診療体制にて当該診療圏の地域医療を担保する地域医療モデルを構築します。医学系研究科及び東北メディカル・メガバンク機構等と連携し、被災地及び地域医療の継続支援体制の確立と調整を目指します。

◇災害時医療システムの構築

我が国における災害医療コーディネート機能の標準化・整備のために行政機関へ提言を行うとともに、災害に備えた情報バックアップの構築、広域巨大災害時の地域医療・介護福祉に係る情報の連携基盤と防災体制を確立し、国際標準の災害対応の医療構築を目指します。災害科学国際研究所との連携による災害時医療システムを構築します。

◇情報ネットワークの整備と利活用

宮城県を中心とした被災地医療及び地域医療における情報ネットワークの整備と利活用を進めます。平時及び緊急時の双方において、医療の質や安全性の向上を図り、患者中心の地域医療に貢献するため、みやぎ医療福祉情報ネットワーク連携基盤(MMWIN)と協働して、地域医療のための“みやぎモデル”に基づいた地域医療の再構築と推進・普及を目指します。

6. 利用者の視点に立ったキャンパス整備

◇患者用駐車場整備による患者サービスの向上

入院及び外来患者数の増加による病院周辺の交通渋滞の緩和のため、短期的解決策として、契約駐車場の有効利用や病院玄関前から木町通へ抜ける車道の新設による導線の効率化を図るとともに、長期的解決策として、立体駐車場を新設し、更なる患者サービスの向上を図ります。将来的には、星陵地区の周辺地にスペースを確保し、病院機能の分散化を目指します。

◇設備の耐震改修

東日本大震災で被災した、医学部3号館等の耐震・改修工事等を遂行します。

7. 持続可能な安定した病院経営と効率的な組織・運営の改善（経営・組織）

◇安定した経営基盤の確立

病院－病院連携・病院－診療所連携の促進、病床の柔軟な運用により、入院患者の確保と先進医療への特化を図るとともに、専門事務職員の育成と柔軟な組織編成により事務部門を強化し、経営の効率化と増収を図ります。

◇適切なガバナンスによる組織運営

大学病院内組織の統合的管理と情報・意識の共有を図ります。医療倫理の順守と医療安全の確保を図ります。開かれた病院として女性医療スタッフや障害者を積極的に雇用し、院内保育所や結婚・出産・育児後の復帰支援や勤務体制の自由度拡大により、女性や障害者に優しい職場として、開かれた病院を広くアピールします（院内保育所の増設、女性職員休息室等設置）。

◇URA等専門職人材による教育・診療・研究支援体制の強化

病院における総合地域医療教育支援部、メディカルITセンター、地域医療連携センター、メディカルサイエンス実用化推進委員会（臨床研究推進センター）、国際化推進室といった教育・診療・研究分野における地域貢献や最先端の病院機能の導入が求められている組織に関して、専門分野のURAを活用して事務部門との連携のもと支援体制を強化します。

◇病院組織の機能強化

医療補助職員の増員による診療環境の改善、インセンティブ導入により医療職の専門領域への特化とモチベーションの維持を目指す。本院独自採用の事務職員について専門性の高いキャリアパスを構築します。